



学校は学ぶ場である。何を学ぶかは分かりやすいが、なぜ学ぶのかは案外と難しい。偉い人になるためとか、世の中に役立つ人に、などが挙げられるが、誰もが偉くなるわけでもなく一概に良い答えとは言いにくい。

一方、近年増加が著しい大災害に遭遇し、家などが危険な場所となったとき、避難所を確保できると取りあえず一息つけるようだ。人間、自分の居場所が危うくなると実に不安な気持ちになる。

学校が職場なので「なぜ学ぶのか」は常口頃から命題であったが、近年「居場所をつくるため」と考えるようになった。当たり前のように、案外究極の答えかもし

れない。人は個々に好みも感性も異なる。従って居場所も多種多様だ。それぞれが自らの満足度の高い居場所を求めて日々努力をする。心地よい居場所に近づけるための基礎づくりが「学ぶ」ということだといえそう。さすれば学ぶことは結局、自分のため、という結論になる。



自分の居場所を探し見つけ、居心地よくしていくために、勉強という努力が必要なのだろう。必ずしもせいたくをするための努力とは一致

しない。自分の居場所をつくれたら、それが本来の自立だと思う。ところで「最後の居場所」と

なるお墓だが、最近はこちらも難題。生きてる時の居場所づくりも大変だが、死後の方はもっと難しい？

(昭和学園高校理事長・日田市)